



忠勇阿佐倉日記

第三編

壹

特
遠
883
11



遠
門
號
卷

阿佐倉日記

阿佐倉日記第三編叙

明治三十八年
十一月十日
購

一日有客詰余曰夫無根之稗史小說雖有勸懲之意或假狂言綺語及巷頭世間之話柄而競新奇矣述怪異矣以偽妄實之俾俗輩歡娛焉君子之所不取也子遊文辭之間奚不識道之所以為道乎余對之曰子所為道者何也仁義禮智固道也余所著之冊子無不據

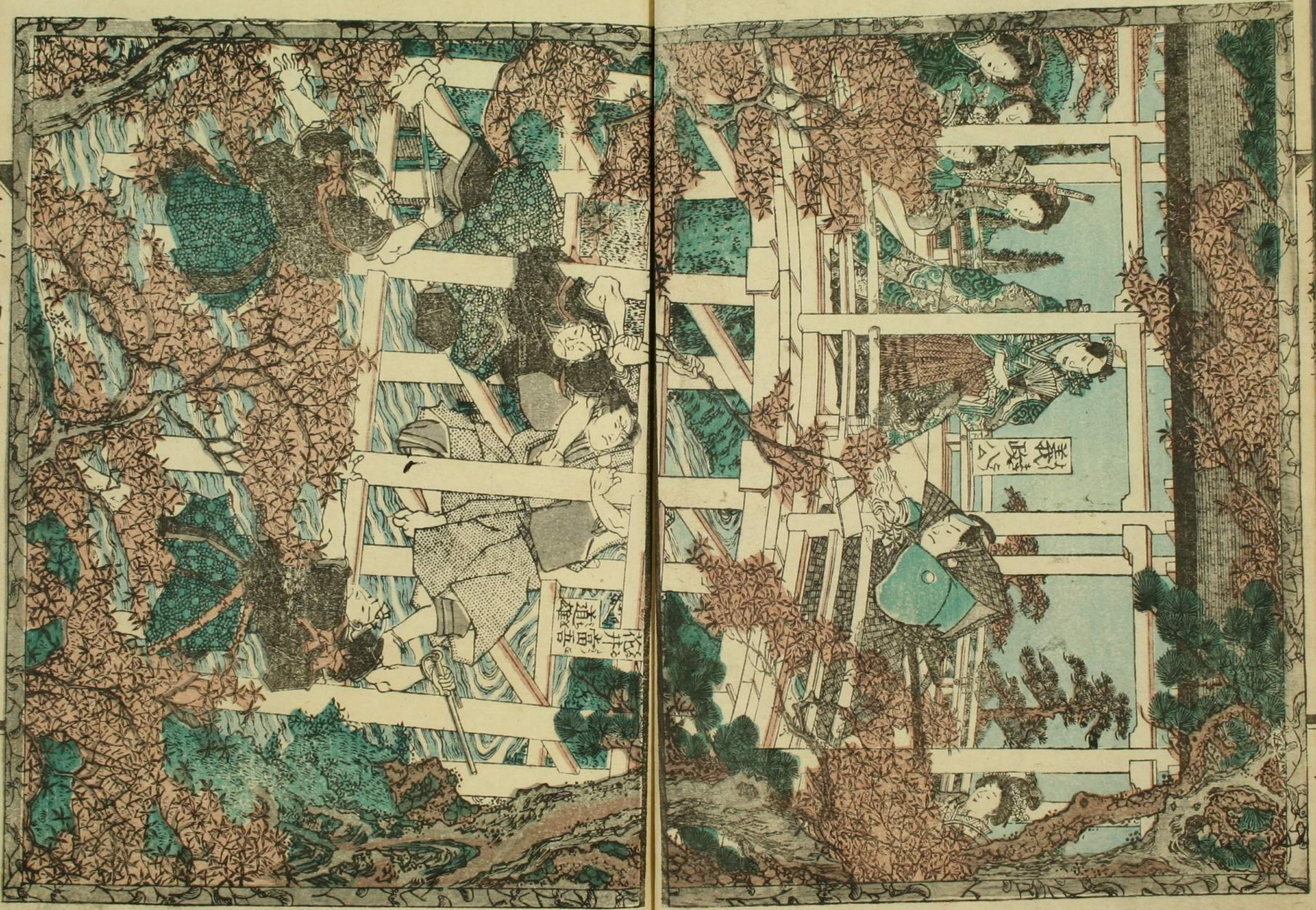
仁與義而忠孝亦存于其中焉善惡邪
正聚散離合使讀者不飽且以繡像補
佐之以甘言治心疾焉如彼酷吏佞謀
之徒與忠貞智臣相反以可觀矣嘗其
文辭之鄙俚猥雜者為幼童穉女而已
幼童多不識於漢字穉女多不解於倭
語是以雖有歷史通鑑紫女源語清女
春曙頗微妙要不若于只一日之戲場

矣余輩綴稗史之本意彼與雜劇奚為
異乎悉皆使兒童勸於善懲於惡之一
端也雖鄙君子野人野人亦有微功也
客唯唯而笑而去焉故以此言換序語
云

昔嘉永七歲次甲寅重陽日

松亭山人題并書





吉野

徳井宮
道吾

義経

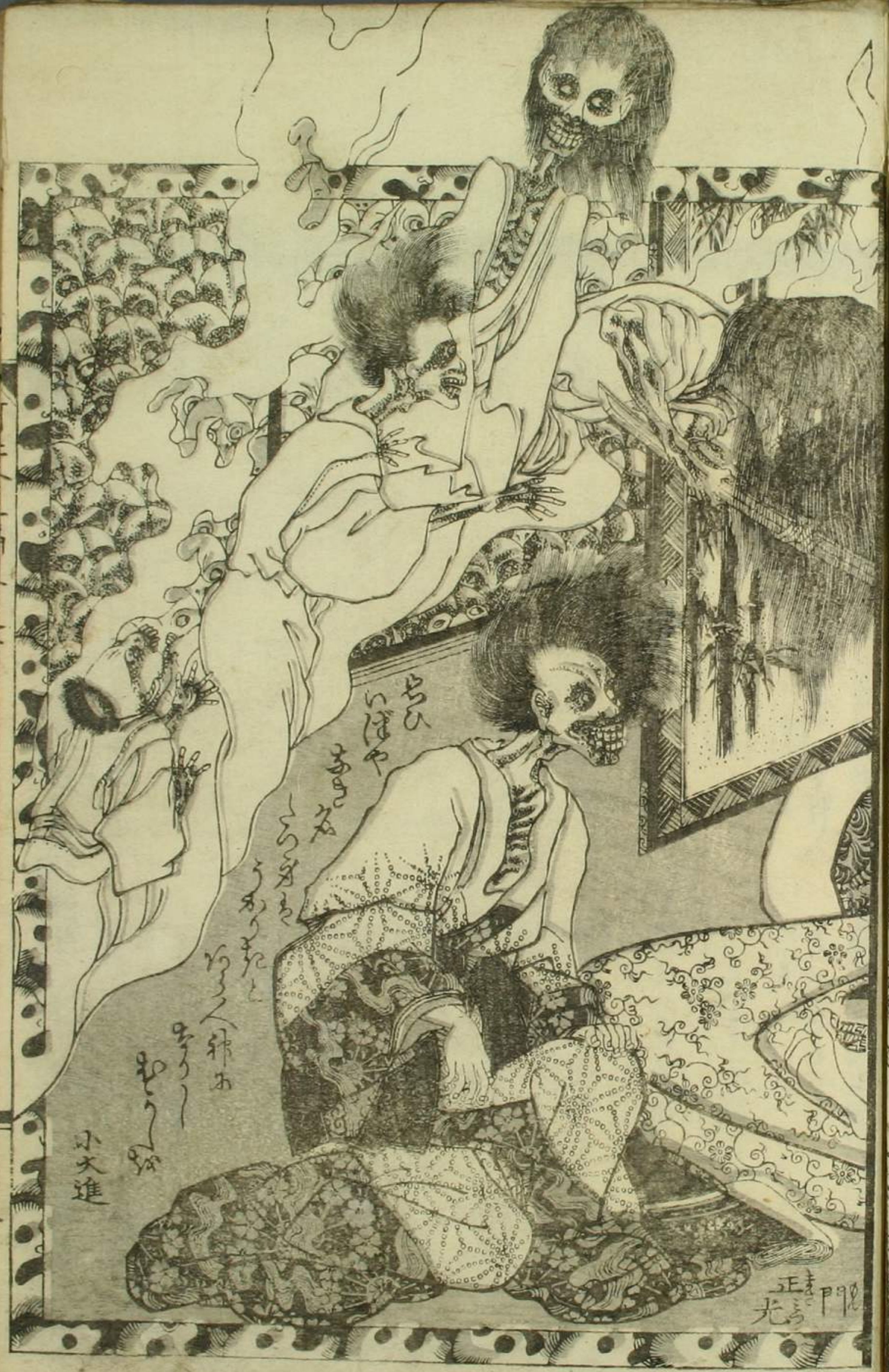


右々此
 いと万の
 風年
 秋さ
 免
 春の
 あつて
 おりひと
 くれ
 千載集
 定頼
 虎次郎の渾家
 蘭



國家當
 平治
 系則賊
 兼間

花井當吾の渾家
 於千代



小文進

あつた
あつた
あつた

正
光



阿
供
三
編
卷
之
一

左
衛
門
正
助

卷第四 阿佐倉の郷人門を叩き 怪異と視て佞臣顛倒を

壹第一面 當吾三條の旅舎小未休 當吾二個小密計と告

卷第二面 豺狼威小募る花洛の館 舊狸怨と速る條原の旅寓

二第四面 苛政と恐れ農民故々退る 於千代が勇氣蘭と拯ふ

卷第五面 忠藏等知縣小願書と捧ぐ 勸め小周る當吾故々小赴く

三第六面 宅平の炙心慄と断離る 於千代の一言良久の心固らぬ

卷第七面 當吾將軍家秋訴の状と献る 佞臣權と握て善者と鞠問を

四第八面 義者刑小遭てか自殺を 鐵牛の悪者禪兒と救ふ

卷第九面 正光亡霊の為小狂亂に 亡霊竟小離と報ふ

五第十面 積不善の除殃糸門と喪ふ 善政肇めて至り万民耽樂に

忠勇阿佐倉日記第三編卷之壹

東都 松亭金水編次

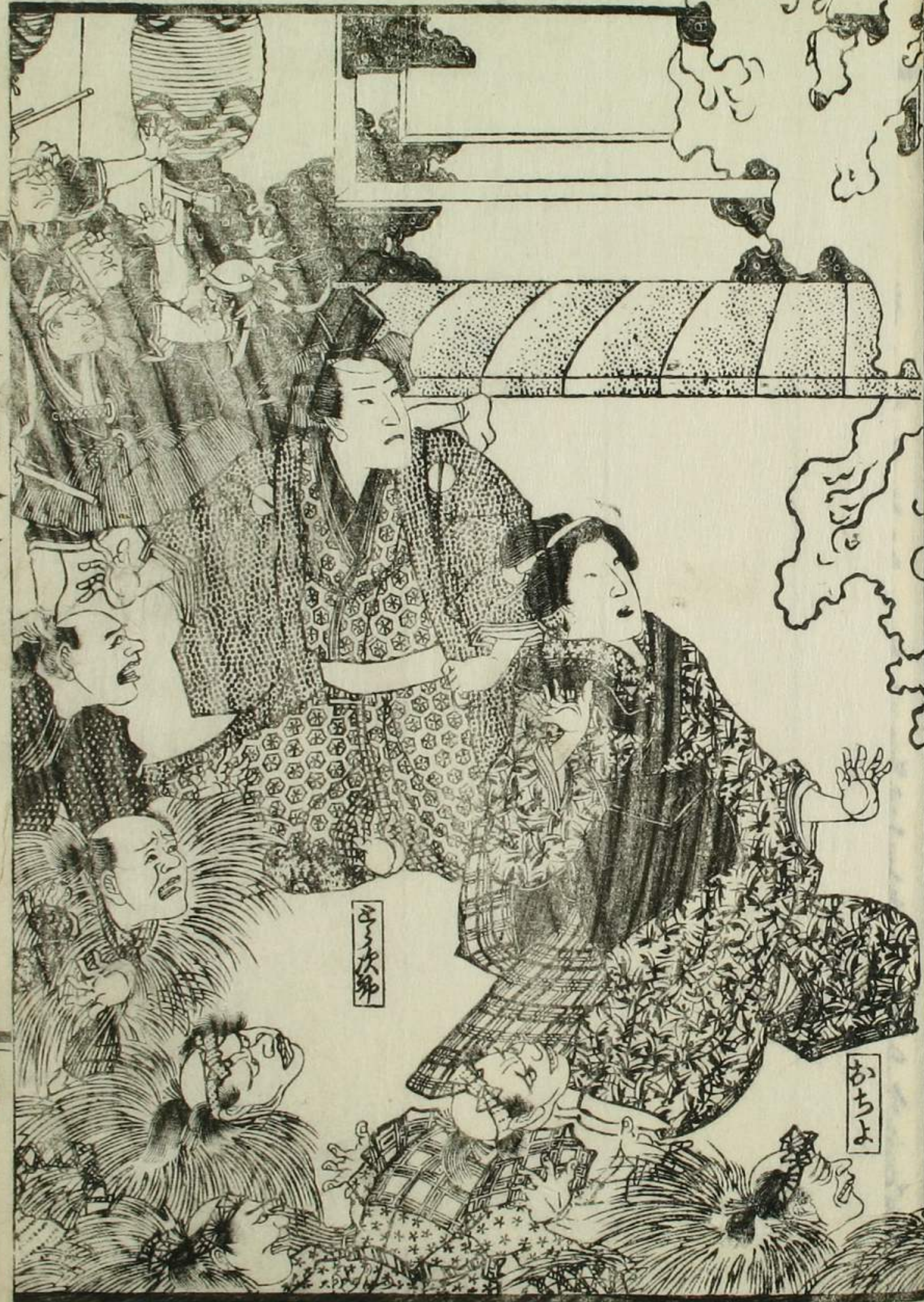
第一面 阿佐倉の郷人門を叩きと噪る

怪異と視て佞臣顛倒を

経小いそぐ。國家將小興らんとする。時ハ必妖孽のゆり。著龍不見の是。四時小初く。禍福の將小至らんとす。善必まづことと知る。不善必まづことと知る。と聖者の金言宜るる。甲賀彈正左衛門正光ハ君の山背へ他小異りて。一財全盛るりければ。かの堅田小滅びる。叔父時氏の怨魂の所。藩をたぬ。勝山小心と。強余小起して。財用不足るる。小。在邪法塔太。南宮の。後。後。後。

上 後へあがり。とて發く。屠人們。吾れ刀秘に死する。とて。目未だ区て
 岩置化す。その春の天行感冒。病ぬ人。多に折る。嘔吐の世。人。腕く
 被。世。僅。ま。さ。ら。の。苦。勞。と。ま。り。た。ら。し。上。不。安。な。罪。な。る。折。檻。不。會。也。れ。と
 の。で。あ。ろ。お。れ。と。う。な。ま。は。大。前。を。指。め。あ。つ。け。る。官。吏。所。等。取。り。ま。す
 莊。屋。の。故。と。出。て。来。ら。ば。備。儀。傳。寄。て。蒐。つ。て。打。殺。し。首。と。朋。を。別。れ。ま。す
 後。此。方。の。腹。を。直。ぬ。と。倉。門。内。と。ま。眼。心。更。不。退。く。氣。色。も。命。於。千。代。の
 手。を。舉。是。の。志。を。う。足。下。等。が。その。志。へ。殊。勝。る。ま。さ。の。春。山。刀。秘。が。定。り
 不。死。林。の。ま。さ。を。ま。さ。と。う。や。實。の。と。あ。り。し。也。官。吏。の。夫。張。出。願。主。を。以
 ち。て。後。日。の。發。足。下。を。女。房。子。ま。ま。い。う。る。罪。不。遭。ふ。を。ま。さ。に。ま。さ。く
 ち。の。傷。と。還。り。と。止。む。も。可。む。於。千。代。刀。秘。う。得。女。を。老。弱。い。る。張。檻。會。後

日。の。終。り。あ。る。と。も。看。る。と。吾。們。が。奴。分。と。も。憑。む。莊。屋。を。殺。さ。す。と。何。所
 容。と。引。て。性。ま。う。官。吏。ど。も。出。念。く。と。四。下。不。郷。く。交。り。り。を。聖。言。す
 折。る。喘。と。馳。来。る。と。是。別。人。あ。り。千。葉。の。中。宮。高。須。の。虎。次。弟。引
 續。て。勝。間。田。の。重。三。弟。の。雜。人。們。七。八。人。と。ひ。と。連。て。お。と。の。い。ま。を。衆。人。們
 が。ま。ま。不。互。塞。す。法。と。と。廣。げ。て。お。強。め。血。迷。ひ。さ。う。戸。毎。の。人。と。と。何
 方。と。あ。る。う。う。が。君。の。表。山。門。尾。筋。と。る。と。命。の。亡。で。凡。不。安。の。於。千。代
 刀。秘。と。逆。り。て。来。さ。す。の。時。殊。勝。る。ま。さ。の。捨。お。る。罪。の。上。塗。る。ま。さ。を。忘
 と。吾。們。三。個。の。い。あ。の。せ。ま。と。う。な。ま。は。案。不。差。な。た。ま。依。り。影。の。ま。奉。幼
 下。ま。く。と。制。さ。す。と。と。函。と。り。り。表。山。の。扉。を。破。と。押。開。て。ま。の。番。不。高
 挑。灯。と。七。ッ。ハ。ッ。左。右。不。並。べ。齊。卷。四。天。不。牙。を。固。め。十。多。早。索。出。鏡。め。く。肘



おちよ

おちよ



おちよ

おちよ

おちよ

おちよ

おちよ

一團の陰火
 倭者の
 心で
 撒く

村長們のいさめ冷やわぬ未らんとまことの跡と逐絶へ奉あせす計
 らひゆて金く上とまきざる。赤心あるとさふゆいぞ。お前小徳と撰んと
 むふ更小徳とゆええゆい。その元と推まき。罪ハ妻の身ふあつて。然
 まば妻を搦めひて。何人の故あり。飯くめ。小徳といふ。天小無一私あり
 笑及ぶ。よく。徳とゆふ。と。身と抱て。お前。草履たの。女と等。一の。あ
 及ぶ。這回の。突入する。汝ある。搦め捕へ。勿論あり。争は。指揮と。愛人。歌
 兵ども。如此。心。得。上。と。腹。眼。ま。ま。ば。美。り。と。於。千。代。と。矢。座。小。搦。め。んと。兵。當
 下。園。内。の。遠。き。を。う。き。て。推。止。め。騎。兵。ども。卒。示。み。せ。そ。の。女。ある。五。口。が。り。
 先。刻。ま。ぬ。危。命。ま。ま。と。一。侍。の。御。ま。の。方。が。宅。へ。指。指。と。教。令。う。け。と
 女。ある。ま。ま。ば。櫻。小。徳。と。ゆ。え。せ。せ。下。見。女。子。此。方。へ。ま。ま。と。於。千。代。と。ま。ま。と。把。

引まんと。兵ども。の。お。前。と。井。六。が。う。掃。つ。て。園。内。刀。秘。と。ま。の。迹。も。不。審。千。代。女。の
 由。の。と。男。お。ま。ま。と。四。門。お。と。噪。る。兵。奴。們。會。得。一。あ。げ。て。乳。明。せ。の。上。ま。ま。と。ま
 美。り。の。ま。ま。と。女。と。バ。沃。地。性。小。徳。い。と。の。人。の。沙。汰。の。存。せ。ぬ。ま。ま。と。一。別。股。は。細
 う。あ。つ。て。お。前。の。執。事。と。結。つ。る。と。冷。と。ま。つ。て。汝。園。内。に。何。網。と。の。い。は。れ。ま
 ら。秘。と。最。前。年。人。の。門。お。前。於。裸。着。つ。て。そ。の。園。内。の。故。事。め。て。秘。と。ま。ま。と。連。珠
 容。ま。ま。と。ま。ま。の。妻。吾。の。渾。家。女。て。と。ま。ま。と。雜。人。の。送。小。徳。の。人。質。と。重。後
 鬼。へ。ま。ま。と。ま。ま。の。一。段。出。来。ま。ま。と。ま。ま。と。許。信。及。預。ま。ま。と。ま。ま。と。就。お。前。刀。秘。の
 女。の。よ。う。と。ま。ま。と。上。做。し。る。女。ある。ま。ま。と。お。前。小。徳。つ。て。居。ま。ま。と。ま。ま。と。許。信。と。ま。ま。と。の。い。は
 出。し。の。構。ある。と。突。除。て。亦。お。前。千。代。と。ま。ま。と。把。ん。と。い。は。れ。ま。ま。と。下。太。前。筆。魚。扇
 と。突。か。し。ま。ま。と。止。め。秘。令。命。の。あ。る。お。前。せ。し。女。事。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。宅。へ。お。前。り。あ。く

阿比倉三郎巻之一

ちよい ちかららつらつと
 と此世異まりの。運故等一同縛りあげ。一應孔明をさう人で。後の上玄の陸
 崎。 倣えんをと。野兵も村長並め。合搦めよと指揮あつて。高野がふ
 と。運回の前。後左右とるを拵て。遁まきしと。積寄の忠告。以下三
 個の者の素外。至極の計らひあり。心も深く。懐り。就中忠告の性未別
 殺のり。あつた。か。非た。と。思ふ。不。信。を。命。と。棄。て。救。者。も。不。信。吹。見
 左右の巻を。拵り。清し。候。雲。内。と。あ。て。強。く。頼。抵。ひ。吾。身。を。り
 れ。多くの人。不。運。累。さ。る。る。在。不。幸。者。あ。る。存。命。を。在。さ。る
 身。不。障。らん。え。未。さ。る。罪。科。不。あ。り。後。釋。の。辱。を。受。さ。る。事。も。竟。出。水。解
 る。す。べ。し。と。拒。む。謀。あ。ら。ぬ。加。ら。ず。と。秘。念。し。つ。も。物。動。さ。ら。ぬ。野。兵。の。い。や
 折。重。あり。於。千。代。と。俱。不。四。個。と。捕。て。縛。り。あ。げ。んと。さ。る。り。不。測。あ。ら。る。

一陣の怪風。吹。ま。り。一。列。の。挑。灯。一。面。不。消。て。ま。黒。暗。に。れ。の
 と。強。く。その。折。し。も。実。小。百。千。の。雷。の。鳴。響。る。を。と。倣。し。て。法。師。太。蘭。堂
 下。り。車。輪。の。思。き。陰。火。の。圓。加。赤。か。つ。る。その。光。を。白。毫。より。釋。明。く。雲
 時。中。空。不。在。と。う。と。不。一。が。忽。地。元。の。晴。夜。と。あ。る。雲。下。三。個。が。眼。不。火。輪。の
 程。不。人。あり。て。白。眼。する。その。凄。ま。い。物。不。信。を。い。へ。う。あ。ら。せ。う。得。の。天。商。董
 兼。天。也。渾。身。戦。く。を。う。り。不。怖。ま。要。時。心。も。勝。臆。さ。ら。ぬ。あ。ら。て。難。人
 不。言。張。を。と。と。倣。さ。せ。ら。る。る。不。今。の。怪。異。の。執。程。ま。ど。の。所。為。不。あ。ら。ぬ
 奈。ま。さ。る。不。信。者。老。者。が。怨。魂。の。あ。す。所。を。う。ん。あ。ら。て。強。て。棄。て。擲。め。并。刺
 る。す。内。の。崇。ま。と。倣。し。て。五。月。蟬。ま。ん。今。放。ち。飯。ま。と。の。害。と。ま。る。所。の。死
 と。ま。づ。ら。の。場。と。許。し。て。ん。と。心。の。ま。る。る。よう。者。初。汝。垢。不。借。と。信。る。不

こまに月一心を改めて雀の井六の人のあつち討ひ討上り死な
 れども農人等と引連て退くところ有免して故等と返す。是れ
 礼坊の五六百人も百人も必後の令看首斫るまで六條河原へ曝
 の。と権威の示せと云葉の程小情まで合む声もあつち忠義の
 備の吾と誠心と云ふ。あつち泰しつを礼坊と徹しつ然らば
 所と退く。と云ふ。と田舎の。此方不並展ふ。郷人等あつち
 早と退く。仁恵の。山沙汰と必罪許さる。有給く。吾と後不
 早と退く。上。未といひ。虎次第。重三郎と跡不。於千代と
 必ひと連て。嘈と。退き。園内は今。掌不。花と散る。必
 多て。伸あつち。海へ送り。用。はと。残。は。況。吟。由。更。不。は。さ。り。け。

かくと忠義の人の大勢と引俱とて。退き。後。安内。の。初。り。と。法。律。先
 三條へ到る。旅。店。の。某。の。知。己。あり。且。上。東。の。度。毎。あ。の。旅。宿。を。さ。る。家。を
 必。ひ。と。退。く。と。云。ふ。と。彈。丸。を。不。僥。倖。今。宵。の。客。も。群。く。表。座。費。も。奥。の。間。も。
 こまに明く。あつち。と。云。て。飲。び。あ。つち。同。止。宿。さ。る。と。夕。酌。も。仕。果。し。忠。義。虎
 次。身。重。三。郎。及。於。千。代。の。四。個。上。の。間。で。建。切。て。不。居。ま。す。忠。義。於。千。代
 對。し。て。い。ふ。や。う。返。回。あ。つち。志。の。遠。き。あ。つち。具。不。知。り。ぬ。と。後。の。こ。の。箇。不。由
 り。ひ。て。情。を。さ。る。も。あ。つち。あ。つち。然。る。不。阿。伏。倉。の。人。等。が。莊。屋。を。殺。す。と。阿
 容。と。と。の。遠。く。と。云。言。も。あ。つち。が。莊。屋。と。い。ふ。の。推。し。を。た。と。大。人。と。象
 一。と。と。殺。す。と。い。ふ。心。不。荒。る。お。ん。身。定。不。あ。り。て。在。也。と。同。と。於。千
 代。の。吐。息。物。と。あ。つち。と。も。あ。つち。と。も。定。ら。不。い。ふ。と。由。り。け。と。今。日。圖

の為小備を付物もち甲乙のあつてさう後が。誰彼といへんよ。三個堂
 儀小備をの養つたふと南とての忠義を頼と左右へち揮す。の計
 策究めて扱ふ。とて三個のこを敷けりて心を寛くと考めせ。三個
 一のこを法に如く上坐ふなり。雑人同左右と護を頼と近きと得。
 然とまほしく画併あらん。在下一個のくお若むと争ふは隔紙と沙
 羅徑と因て入る人あり。とての畢竟作らん。次の條を續てあるべし

第二回

當吾三條の旅舎小末る
 當吾三個小密計を生る

當下堂処へち出る。別人多る。花井當吾。甲肝伴の旅准修。五
 合解と後へ脱棄坐す。忠義作め。とひさし後が。是れと事。續きて

物ゆい。於千代の移る。此処小人の在と。つりて。あつた。
 於雪初日。黄金の此日。洞ひ。と問と。當吾の末。此の
 人こと。又廻る。兩三回吐息。吐き。休。這回。一件の吾。們。作。め。足。下。達
 の。大。致。と。い。は。れ。る。ぞ。孔明。子。房。の。才。智。ゆ。あ。ら。は。し。と。て。遊。人。の。如。く
 秘。ど。り。凡。急。の。者。の。計。ら。ひ。あ。の。達。く。う。ゆ。あ。れ。ど。も。も。の。内。の。勢。ひ。も。
 時。運。の。然。ら。し。も。所。あ。ら。ん。性。も。と。も。下。の。ま。ま。と。十五。宗。の。旅。角。を。
 夫。多。の。千。葉。の。賢。兄。が。跡。を。逐。て。堅。田。多。吉。致。入。到。り。後。者。好。む。武
 士。が。あ。ら。は。し。と。如。此。と。と。昔。の。ひ。り。多。あ。り。き。然。と。と。日。夢。と。と。憑。ひ。と。
 小。あ。ら。は。し。と。の。修。不。ら。ち。道。で。然。て。他。小。信。と。秘。と。三。十。年。の。後。小。到。り。火
 害。交。起。と。ま。て。甲。賀。の。家。も。窮。絶。と。入。表。下。の。は。き。も。俱。小。安。秘。と。と。

阿部倉三郎次郎

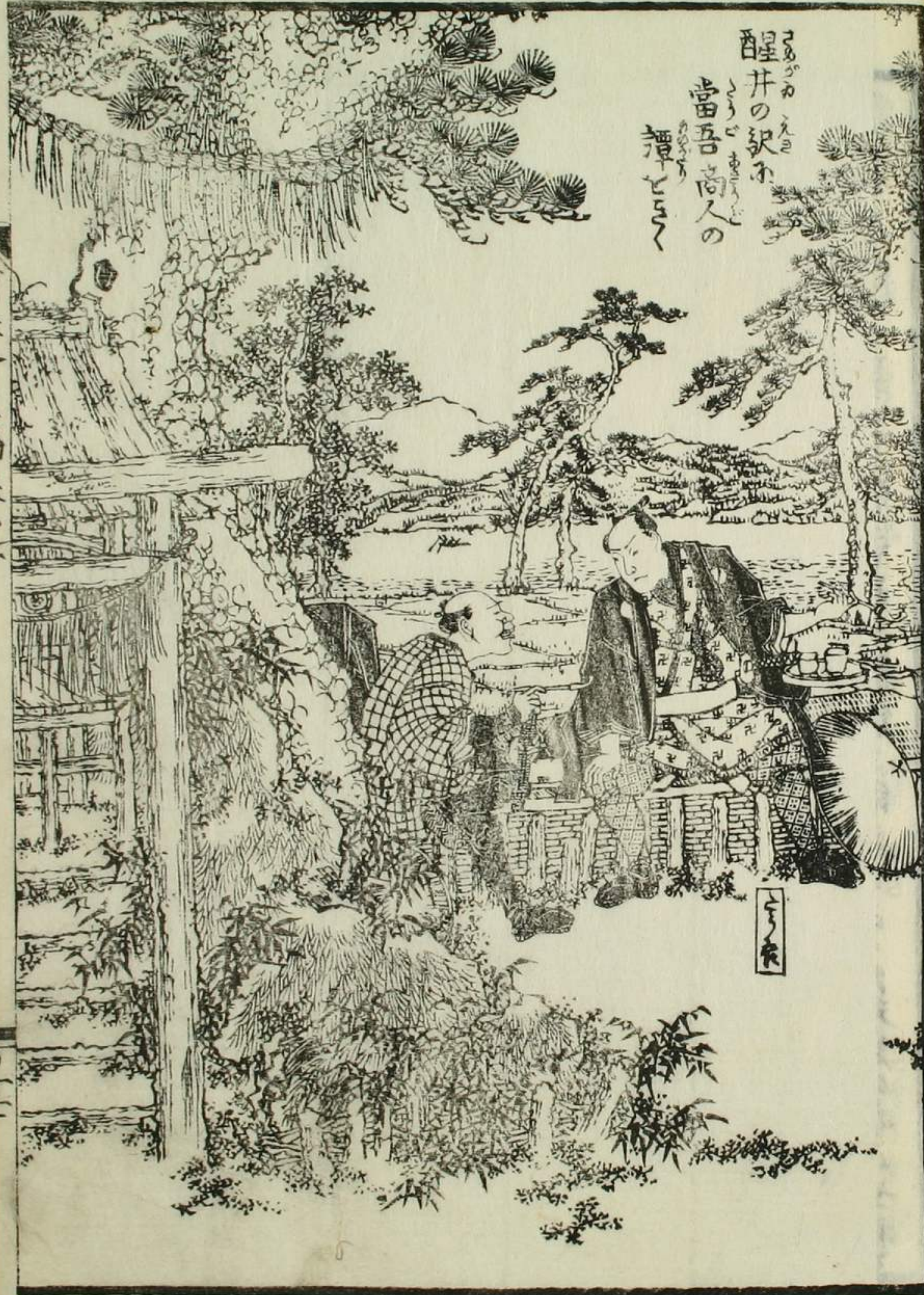
二二

及於此非道の計らひ夫のころうど東洛まで重き罪人うらさうふ牢
 裏小昇ふて。鐵把長脚潰れぬも。人を拂つて曳きたる。十運の死吾們
 さへ悲しとあふふその家族のさそ悔いとあふらあど。後見と此願を
 さそ。所容とて罪を死すも。罪を隔る湯まうさ。かくとも京都の評を
 衆が。計らひあやと傍痛くあふらあど。いとて。連る漢士を唯せよ。吾
 儂が衆を物とせ。大洋おその牢裏を。眼あ小看さううが。哀れさう
 依ると。使の者們目殺せ給へ。愁訴せ給へ。手と換て東洛へ。思
 するふ。かくその故郷へ。飯るも要る。おふを。後へ。ち。彼宜小死計ら
 と。この。是。暮小此処へ。来。つ。衛の。心。お。風。使。何。佐。余。の。郷。の。農。民。皆。甲。斐。の。徳
 の。門。か。へ。結。考。さ。う。う。が。先。刻。の。程。か。さ。る。引。取。と。さ。う。く。の。心。も。あ。ひ。ま。さ。う。

かくその此処小宿であらん。と来てまきけり千葉勝間田高須の哥も在る
 故小まろ入て看る小吾父彼処で死せと。愛のひて怒ま小信を。彼処へ到り
 て仇等が頸を伐並えとの勇一。志のその極の骨小携肝小濡と。排れま
 せ小辱し。怒とど由勝間田の哥が異見との書小書。血氣小早も場あ
 あふ。静小今より高須さん。さ。さ。ひ。さ。や。人。と。俱小於千代が在んと。
 家する小泰山の娘と。救いんとて来。う。さ。う。ん。が。并。の。志。を。致。ま。の。と。後。て
 益ある所あると。あ。は。だ。怒。ま。と。ど。も。を。仇。小。新。あ。る。と。う。さ。ま。怒。し。極。を。容。子。と
 依るべ。と。愛。を。於。千。代。の。涙。と。排。ひ。家。の。の。や。く。泰。山。の。京。洛。へ。見。ま。あ。ん。と
 泣。の。心。を。止。ま。ん。や。と。夜。小。終。ま。て。家。と。と。ち。女。東。刀。秘。を。懐。と。か。い。ま。さ
 一。処。如。此。と。あ。ん。ま。さ。又。画。焼。と。あ。る。と。あ。う。ま。沃。城。園。内。小。後。の。と。は。尊。様。の。

ありと。二竹を流る傍より。忠孝の小勝を認め。脱れ於千代を送る也。
 出外とせせと奔一甲乙二回より合せ。俱小力と戮さんと准儀のちり。知
 縣小の損受え下月等十五人あひく。絶えき。一人も邑口を懸てさる
 トと命令を下まるといへど。びびりて下月等とち倒し。且罪有りて近出する。あ
 強劫一方あるを。さ小経を吾們三個の弟路へ登望を前を信め。ま滝沢
 の云を妻の小須屋喜代平なる老分を副て。その後を信むべし。と分隊を敵
 して出づるふと。や回小あひて表門へ衝掛る。さう吾們未さう。ささくう後ハハ
 如此之と。陰火の怪異も。落ゆあ。口を拵へておがく。さう。妻五口ハハ。因果
 て。ま。數回歎息。在下を引遠へ急ぎて。地へ走り。も。安東力移。歎
 ひとま。彼人固より。心ある。怪非分明ある。と。さ。ひ。の。と。あ。ふ。就

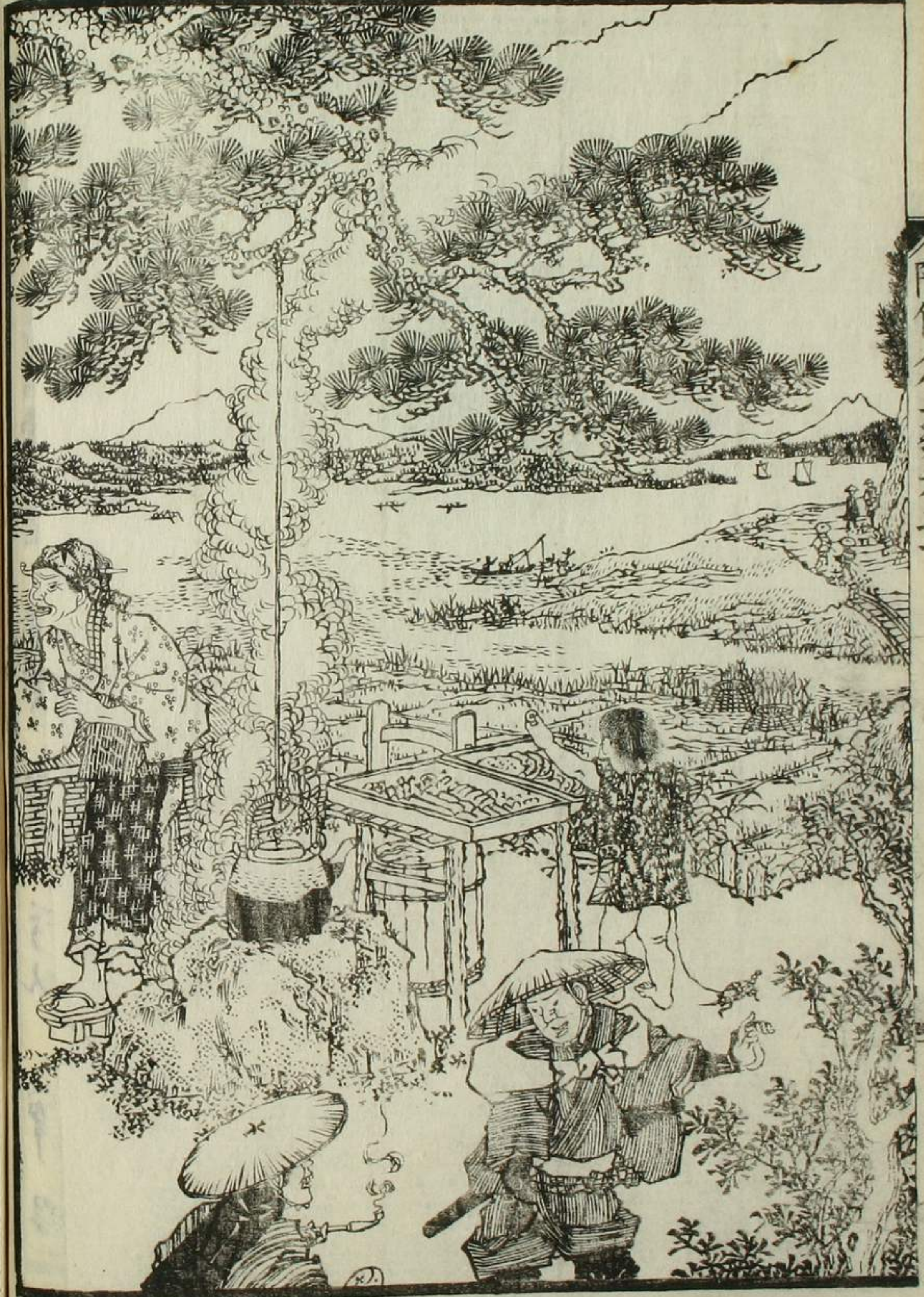
小倭人多く虎口を隔せ。閉門の口とさる。吾們が運命も。今
 さ。松と冷方なり。天日い。ま。地。小。壁。社。とも。い。う。ま。は。倭。奸。の。時。は。て
 忠。孝。の。妻。東。太。人。か。初。の。如。く。ん。を。吾。們。が。運。命。も。吾。小。獨。ぬ。と。さ。ん。え。う。
 と。ま。救。回。歎。息。せ。し。要。め。あり。て。於。千。代。小。對。ひ。は。泰。山。の。災。難。を。見
 は。小。悲。び。を。救。い。ん。と。て。却。て。大。幸。小。及。び。つ。所。謂。女。賢。く。て。牛。法。損。ふ
 比。る。ま。と。の。今。小。於。て。跡。へ。返。ら。ん。元。素。就。を。名。の。赤。心。更。小。咎。む。と
 あ。の。あ。く。私。と。你。が。ま。ま。と。さ。ま。ま。の。信。る。と。お。も。い。と。思。へ。ば。こ。も。の。信。家
 ろ。ん。是。より。底。の。成。め。の。と。天。下。小。任。ま。す。敵。小。你。の。兩。三。の。郷。人。を
 乃。て。家。小。飯。り。千。葉。勝。回。田。を。馬。の。留。守。宅。へ。傳。の。外。に。詳。小。奉
 ま。滝。沢。の。他。へ。演。説。せ。ま。と。遊。小。小。一。下。郷。人。の。中。心。刺。す。人。を。信



醒井の沢水
當吾商人の
澤水

一

阿波知三郎



阿波知三郎

此小居るも要るけま。命小後ひまはけきと。家と身妻子と措
 互。慈とあまをまあり。身と罪被るが怖しとて。大人の安否日分さぬ
 阿容とて何飯らん。帰るとも安穩小あ族と養る人淋とあ
 詔。あを慶小あもさる。被ると恨む物と悔まん。飯まあふ飯ま
 ろう。さるは無の法貸とす。被へ押裁命と的。小有去と定めて性
 人。各奈何小と秋入ま。後小並居る農民のいふや及ぶ。吾が
 校官吏と思とて。黄金綱とて命ま。生死もあま。老人と何
 けまを被処小若くせん。斤内も早くその難難と救ふ。思小報ら
 去未速ふとさあ。裳襦折りのも。下忠義と奉て哲之
 其まのあり。畢竟當吾が汝達小飯まとあふ。双方の。去り安泰と

思へあり。然るとく被傲と。今より再び館へあふ。その志ハ得遂す
 去。如て大人小吾們小罪二層と信ま。計らひ。終るへさも猶免
 去。鰥魚の泥不息吻る。是と智といや不智といや。自く鶴と
 思惟せ。誠めると今更小威勢拔てま。下小居る忠義。去吾小
 對ひ。匹夫も志と奪ふへう。去。渠等茶味のりあるま。その身あんきの安否
 顧む。大人の思小報いん。その心根ハにあり。勇あり。さるは強て速飯
 より。折目くら小返めあふ。内小あつて西小あま。ま。この法の計らひ。畏
 去。被まる方こそ。是下等の小必ま。と重三身と。虎決
 去。か合。いと被散む。吾も然と。その當吾が。の心。奈何小といふ
 去。吾の回。在下。別小所存るけきと。然らぬと。衰耗と。腐蝕の

かく大勢。さふ居ての目の失墜果の深この折塵不及せん加縛西三個の
目撃して愁訴もまた。然るに多人教出張るるが。純黨教訴とあるは
かけぬ。純額とのいふん。と慮まへ。とりのか。とて。農民們のいふ。是の
小檀那のいふ。折居る。吾們が。念を。まんと。して。却て。法の。障り。を
か。経。ある。の。これ。大。害。あり。ひと。ま。づ。此。如。を。引。取。へ。然。る。に。後。の。計
ら。ひ。大。人。の。奈。何。ある。を。後。の。故。ひ。ある。を。後。の。故。と。勝。を。進。めて。備。に
ら。う。當。吾。の。妻。め。回。答。あり。ま。と。拱。を。居。り。し。が。忠。義。を。下。三。個。不。對
ひ。使。運。回。の。一。件。賢。兄。達。の。不。存。の。奈。何。か。在。下。熱。慮。す。不。憑。と。ある。を。安
東。大。人。就。不。執。虫。居。と。安。つ。ま。な。筋。骨。を。抜。ま。つ。心。地。ある。り。て。この。上。の
事。後。の。さ。う。あり。と。ある。紙。令。の。り。る。願。文。を。り。て。訴。へ。り。と。も。か。は。安。會

道小横へて上小通せ。吾們ともの下の罪人とて无理非及の事
ゆのの散て詮る。且ま又が生死の際も。於千代が幻小姿を听その
夜陰火の怪異とりて大方の素いぬまど。いまその実を得まら。死せ
ま。と。定。ふ。ら。ひ。終。し。且。國。許。を。下。司。等。を。或。ひ。の。罪。り。打。擲。せ。い。美。小。而。む
郷。人。等。が。内。の。勢。ひ。ある。を。け。ま。と。是。吾。們。が。身。小。終。て。罪。を。擲。る。の。つ。ま。れ。ぞ。の
責。も。ま。と。脱。走。難。ん。是。等。の。奈。何。不。討。らん。や。と。向。ま。て。三。個。の。勝。勝。と
吐息吐つ。沈呻小睡て。更不詮る。方と考ま。ま。との。回。答。を。他。小。云。案。の。案
下。件。の。曲。辰。民。們。一。同。小。首。を。擡。げ。日。未。あ。り。て。才。智。小。聞。る。花。井。の。小。檀。那
千葉勝間田高須の長も。一容小。給。方。あり。と。宣。へ。吾。們。の。頭。を。た。た
の。蟠。ま。つ。る。ゆ。く。進。退。の。夜。と。失。ふ。の。こ。ろ。大。人。を。救。ふ。の。役。柄。の。是。より。さ。う。い。ふ

可上言三編卷二

らしめ入。仕揚るるにあづか。依その所の三箇條。がまも仮初る。まど四五十日のその後ある。右ふもたふも。治方ある。まづ渠を阿佐倉へ飯とも。取て計り。今ま。三個の表の坐敷へ住ぬ。

忠勇何佐倉日記第三編卷之六章

